



労働政策研究報告書 No. 189

2017

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

子育て世帯のディストレス

労働政策研究・研修機構

子育て世帯のディストレス

独立行政法人労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

まえがき

深刻な少子化の進展に伴い、子育て問題に対する国民の関心も高まっている。子育て世帯に対する社会的支援も着実に強まる方向に進んでいる。ところが、子育て世帯のディストレス（苦悩）は昔に比べて、むしろ増大している傾向にある。本報告書はそこで、独自のアンケート調査の結果に基づき、日本の子育て世帯が直面する様々なディストレスの現状を明らかにする。とくに、子育て世帯が直面する所得や余暇時間の減少によるディストレス、母親の就業継続を巡るディストレス、子育てのディストレスについて、その現状と課題を示し、子育て世帯への支援策を考えることとしている。

なお、この報告書は、JILPT のプロジェクト研究「企業の雇用システム・人事戦略と雇用ルールの整備等を通じた雇用の質の向上、ディーセント・ワークの実現についての調査研究」のサブテーマ「女性の活躍促進に関する調査研究」の一環として実施された「子育て中の女性の就業に関する調査研究」の 2016（平成 28）年度成果の一つとして取りまとめられたものである。本報告書のベースとなる各年のアンケート調査の結果速報は、JILPT 調査シリーズ No.95（2012 年）、No.109（2013 年）、No.115（2014 年）、No.145（2015 年）、No.159（2016 年）として公表されている。本報告書と併せてご活用いただければ幸いである。

2017 年 3 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野 和夫

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆章
<small>しゅう えんぴ</small> 周 燕飛	JILPT 主任研究員	序章、第 6 章
<small>あべ あや</small> 阿部 彩	首都大学東京都市教養学部教授	第 1 章
<small>ないとう ともえ</small> 内藤 朋枝	JILPT 臨時研究協力員	第 2 章、第 3 章の和訳
James Raymo	ウィスコンシン大学 マディソン校社会学部教授	第 3 章
<small>さかぐち なおふみ</small> 坂口 尚文	公益財団法人家計経済研究所次席研究員	第 4 章
<small>おおいし あきこ</small> 大石 亜希子	千葉大学法政経学部教授	第 5 章

「子育て中の女性の就業に関する調査研究」研究会メンバー（除く執筆者）

阿部 正浩 中央大学経済学部教授
馬 欣欣 一橋大学経済研究所准教授
永田 有 JILPT 統括研究員

目次

序章 子育て世帯のディストレス —研究の趣旨、方法と主な内容—	- 1 -
1 研究の背景と目的	- 1 -
2 研究方法	- 4 -
3 各章の要旨	- 5 -
4 まとめと政策的示唆	- 8 -
参考文献	- 9 -
第1章 離婚と貧困の関連および離婚の子どもへの影響に関する試行的分析	- 11 -
1 問題提起	- 11 -
2 先行研究	- 12 -
3 データ	- 13 -
4 分析手法	- 14 -
(1) 分析1 離婚発生の推計	- 14 -
(2) 分析2 Wave2 および Wave3 に離婚イベントが発生する確率の推計	- 15 -
(3) 分析3 子どもの学力低下と離婚の関係の分析	- 15 -
5 結果と考察	- 16 -
(1) 分析1 離婚発生の要因分析	- 16 -
(2) 分析2 Wave2 および Wave3 に離婚イベントが発生する確率の推計	- 17 -
(3) 分析3 子どもの学力低下と離婚の関係の分析	- 18 -
6 結語	- 19 -
参考文献	- 20 -
第2章 母親の就業における世代間連鎖	- 21 -
1 はじめに	- 21 -
2 背景	- 22 -
(1) 子育て中の母親の状況 (JILPT 調査より) : 就業形態と賃金	- 22 -
(2) 子育て中の母親の状況 (JILPT 調査より) : 子育て支援制度の利用状況	- 24 -
3 先行研究と本稿の特徴	- 24 -
4 データについて	- 29 -
5 分析について	- 30 -
(1) 推計モデル	- 30 -
(2) 変数	- 30 -
6 推計結果	- 32 -

(1) 職業キャリアコース選択	- 32 -
(2) 母親の継続就業に祖母が与える影響	- 35 -
(3) 性別役割分業意識について	- 35 -
(4) 第一子出産1年後の就業状況	- 37 -
(5) 第一子出産1年後の就業状況：限界値	- 39 -
(6) 第一子出産3年後の就業状況：限界値	- 40 -
7 まとめ	- 41 -
8 政策的示唆	- 42 -
参考文献	- 42 -
第3章 祖父母の支援と母親の職業キャリア —三世代同居・近居に注目して—	- 50 -
1 はじめに	- 50 -
2 背景	- 51 -
(1) 日本における既婚女性の雇用とキャリアの状況	- 51 -
(2) 居住形態と母親の就業	- 52 -
(3) 仕事と生活の両立、公的支援、家族の援助、そして母親の就業	- 53 -
(4) ひとり親世帯と就業	- 54 -
(5) 居住形態、家族の援助、そして女性のキャリア	- 55 -
3 データ	- 56 -
4 変数	- 57 -
5 手法	- 59 -
6 結果	- 59 -
(1) 就業状況	- 60 -
(2) 雇用形態	- 60 -
(3) 将来希望する仕事の形態	- 61 -
(4) 求職状況	- 61 -
(5) 希望する就業形態	- 62 -
7 考察	- 62 -
参考文献	- 64 -
第4章 女性のライフコースと支援のありかた	- 75 -
1 はじめに	- 75 -
2 潜在クラス分析によるアプローチ	- 76 -
3 データと使用する変数	- 78 -
(1) 使用したデータと分析対象	- 78 -

(2) 使用した変数について.....	- 78 -
4 第1子出産前後の就業状況はどのように分類できるか.....	- 79 -
(1) 浮かび上がった3つのグループとそれらの特徴.....	- 79 -
(2) 個々人がどのグループに属するかを規定する要因.....	- 80 -
5 第1子出産前後に仕事を辞めた理由について.....	- 82 -
(1) どのような理由で仕事をやめていたか.....	- 82 -
(2) 仕事と育児の両立はどのような面で難しかったのか.....	- 85 -
6 育児および就業を行う上で望まれている支援策.....	- 87 -
(1) グループ別にみた、望まれている支援策の相違.....	- 87 -
(2) 仕事をやめた人とやめていない人の間での、望まれている支援策の相違.....	- 88 -
7 おわりに.....	- 89 -
参考文献.....	- 91 -
第5章 母親の非典型時間帯労働の実態と子どもへの影響.....	- 92 -
1. はじめに.....	- 92 -
2. 先行研究.....	- 93 -
(1) 母親の就労と子どものアウトカム.....	- 93 -
(2) 母親の非典型時間帯労働と子どものアウトカム.....	- 94 -
3. 分析方法.....	- 96 -
(1) データ.....	- 96 -
(2) 変数.....	- 98 -
4. 母親の非典型時間帯労働の現状.....	- 102 -
(1) 世帯類型、子どもの年齢と性別にみた状況.....	- 102 -
(2) 世帯類型、子どもの年齢と祖父母との同別居別にみた状況.....	- 103 -
5. 分析結果.....	- 103 -
(1) 要約統計.....	- 103 -
(2) 推定結果.....	- 104 -
6. 結論と課題.....	- 110 -
参考文献.....	- 111 -
第6章 母親による児童虐待 —母親の自己認知と環境要因—.....	- 115 -
1. はじめに.....	- 115 -
2. 研究の背景.....	- 116 -
3. 既存研究と本研究の仮説.....	- 117 -
4. データと主な変数の定義.....	- 119 -

5. 実証分析の結果.....	- 120 -
(1) 単純集計	- 120 -
(2) 推定結果	- 123 -
6. 結びにかえて	- 127 -
参考文献	- 128 -